

とさるふ 資料紹介

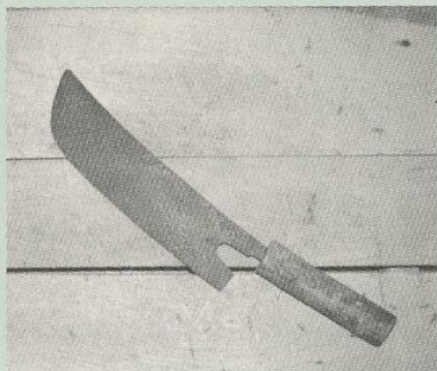
＝83＝

収集資料紹介ノート ―モノに歴史あり―

(二) 桑切包丁

卵から生まれたての小さな蚕かぶを飼育するには、桑の葉を細かく刻んでやる必要があります。そのため登場したのが今回の「桑切包丁」です。

蚕の成長に従って葉の刻み方が大きくなると、包丁の刃はだんだん大きくなっていきました。桑切台、座桑台などと呼



▲桑切包丁と座桑台

ばれるまな板も、包丁の刃とも大きくなっていきました。この「桑切包丁」は、江戸時代の蚕さん育書いくしょの挿絵にすでに見られますが、近代以後、経営の大規模化とともに桑切機が導入されるようになります。



▲桑切包丁を使う様子
享保3(1718)年刊
『養蚕秘録』より

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成十年四月分)

○玉石取りマンガなど三十七点
(渡辺一正さん／川合町)

○和知村松林寺護符など十九点
(加木屋和幸さん／牧野)

○蚕種代領収書など四点
(朝日幸男さん／三和町)

博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内／圃内四〇八)まで情報をお寄せください。